2013年 年頭所感

大阪府歯科保険医協会理事長
小澤　力

41年の歴史を羅針盤に

明けましておめでとうございます。

会員の先生方も3900人を数えるまでになりました。ひとえに先生方のご支持のおかげと感謝しております。

100人からのスタートでしたが、「保険で良い歯科医療」を会員の先生方と追求し、患者さん・府民の皆さんと手をつないで運動してきた諸先輩の思いが、今日につながっていると確信しています。

協会は創立以来41年にわたり、ぶれることなく地域医療を守る、患者さんを守る、保険医療を守るために活動してきました。

今年は、社会保障をはじめ、平和・民主主義という日本社会の基盤が、そして歯科医療にとって重大な岐路に立ち向かう年となりました。

医療をはじめ、働くこと、暮らすこと、学ぶこと、子育て、介護など、まさに人間らしく生きていくことへの厳しい攻撃が、あの手この手で行われてくるでしょう。

現在の歯科医療の状況を見て、将来の歯科医療がどうあるべきかを考える時、過去にどのように考え、どのように対応してきたかが輝きと重要性を持ってきます。

協会の歴史は、逆流に抗い、保険医療を守り育ててきた歴史でもあります。42年目のこの年に、協会は先生方と共に、保険医療とそれを支える保険医の生活と権利を守るために、協会41年の歴史を羅針盤に全力で邁進していきます。

大阪府保険医協会理事長
高本　英司

医歯連携の深まりに期待

謹賀新年。大阪府歯科保険医協会の皆様、今年も何卒よろしくお願い致します。

年を重ねるごとに貴協会との交流が深まっていることをうれしく思っています。府民の健康増進に責任を持っている両協会ですから、当然そうなって当たり前ですが。

これまでも〝歯周病と糖尿病〟など貴協会との接点に注目してきましたが、とりわけ昨年6月に取り組まれた公立小学校児童に対する歯科治療調査は、素晴らしい活動でした。大阪全体を視野に入れた疫学調査は、児童の口腔崩壊の多さ、治療率の低さを明らかにし、全国に衝撃を与えました。

口腔から見える貧困問題は社会的告発であると同時に、歯の健康問題は児童の将来にわたる生活の基本をなす重要な問題であることを社会に知らせました。そして予防の重要性を、「保険でより良い歯科医療」「口は命の入り口、心の出口」という語句で端的に表現され、医科開業医にも強く印象づけることになりました。

今年は2年に一度開催予定の医科歯科日常診療経験交流会の開催年に当たります。お互いの日常診療の実践例を出し合うなかで、共通の土俵が広がり連携は深まっていくと期待しています。

また、共通のたたかいとして、金儲け最優先・競争第一主義、バラ色に描く大阪都構想を背景とする橋下「維新の会」による大阪つぶしとの対決があります。

さらに、院所経営を危うくし、住民の生活を窮地に追いやる消費税増税法、自立・自助を根幹とする社会保障改革推進法、医療福祉を利潤追求型の成長産業と位置付けるTPP、数万年先まで続く原発過酷事故・内部被曝・東日本大震災の復興などの課題にも取り組んでいきたいと思います。

今年も歯科会員の皆様の健康とご活躍を祈念しつつ、新年のご挨拶といたします。

歯界

干支が「辰」から「巳」に変わったが、辰が想像上の竜、つまり恐竜なら、爬虫類同士のバトンタッチである。巳には華やかさがなく、今年の期待薄さを示唆してそうだ。だが、巳つまり蛇は無論人類より古く今も13科2700種が地球上に生息している。しぶとく生き残るのが今年のテーマかもしれない。

19世紀後半の先進国による激化した植民地争奪戦は熱帯地方に主舞台を移しつつあった。蚊など昆虫の媒介する伝染病とともに毒蛇被害への対策も重要課題だった。

ウイルス疾患研究での失敗で野口英世の名声は失墜したが毒蛇研究での功績は今も生きている。野口の残したガラガラ蛇の骨格スケッチにはその詳細さとともに、日の丸を背負って情熱を傾ける発展途上国ニッポンの健気さと悲壮さまで現れている。

現代日本の科学者にも熾烈な競争のなかで蛇のようなしつこさは必要だが、安定した平和と多くの優しい応援のなかで明るい未来に向かって蛇行できる。

皆様の益々のご活躍をお祈り申し上げます

大阪府歯科保険医協会
役員・事務局一同

理事長　小澤　力
副理事長　貴島　正彦
下井戸昭介
辻本　勝
冨本　昌之
三井　泰正
山上　紘志
吉田　裕志
理事・相談役　伊津　進弘
小山　榮三
理事　安積　中
近藤　正
杉本　叡
寺嶋　洋幸
戸井　逸美
中西　幹夫
中村新太郎
早田　寿夫
兵頭　正道
三木　正弘
森　啓
監事　矢部あづさ
古田　光行
宮本　辰雄
顧問　永田　悦夫
名誉理事長　玉川　和隆
事務局長　志岐　敬